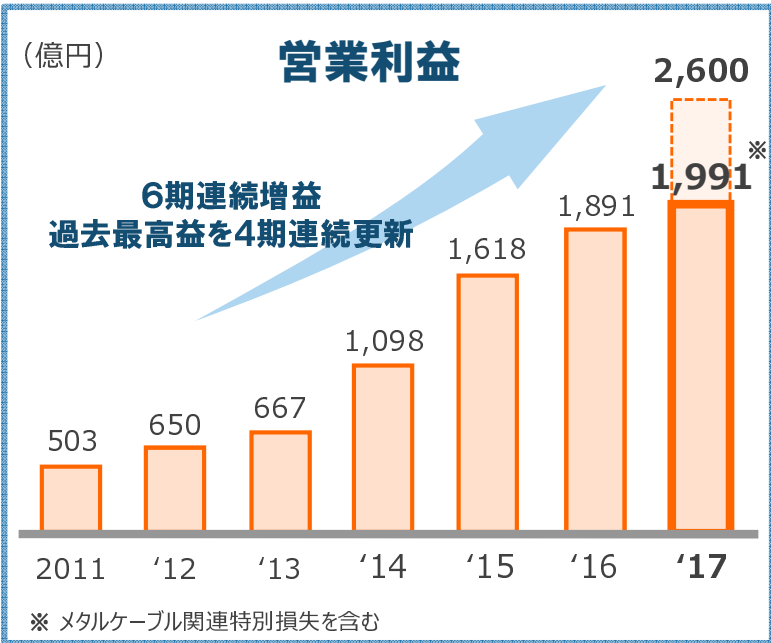


2017年度〔第19期〕決算

2018年5月11日

東日本電信電話株式会社



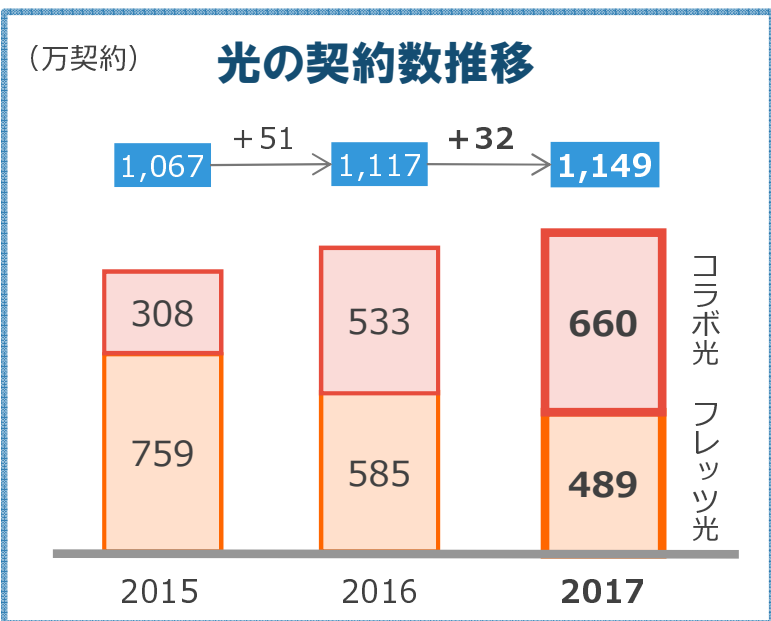
■ **営業利益＋メタルケーブル関連特別損失は、1,991億円**(対前年+100億円)となり

6期連続増益、過去最高益を4期連続で更新

■ **当期純利益も1,524億円**(対前年+27億円)となり

6期連続増益、過去最高益を3期連続で更新

■ **設備投資は、2,502億円**(対前年▲235億円)



■ **フレッツ光(コラボ光を含む)の純増数は、32万純増**

(万契約)

	2016年度		2017年度	
	純増数	契約数	純増数	契約数
フレッツ光(コラボ光含む)	+51	1,117	+32	1,149
(再)コラボ光*	+225	533	+127	660

※フレッツ光からコラボ光への転用数を含む

■ **有利子負債を、2,252億円まで圧縮**
(対前年▲1,406億円削減)

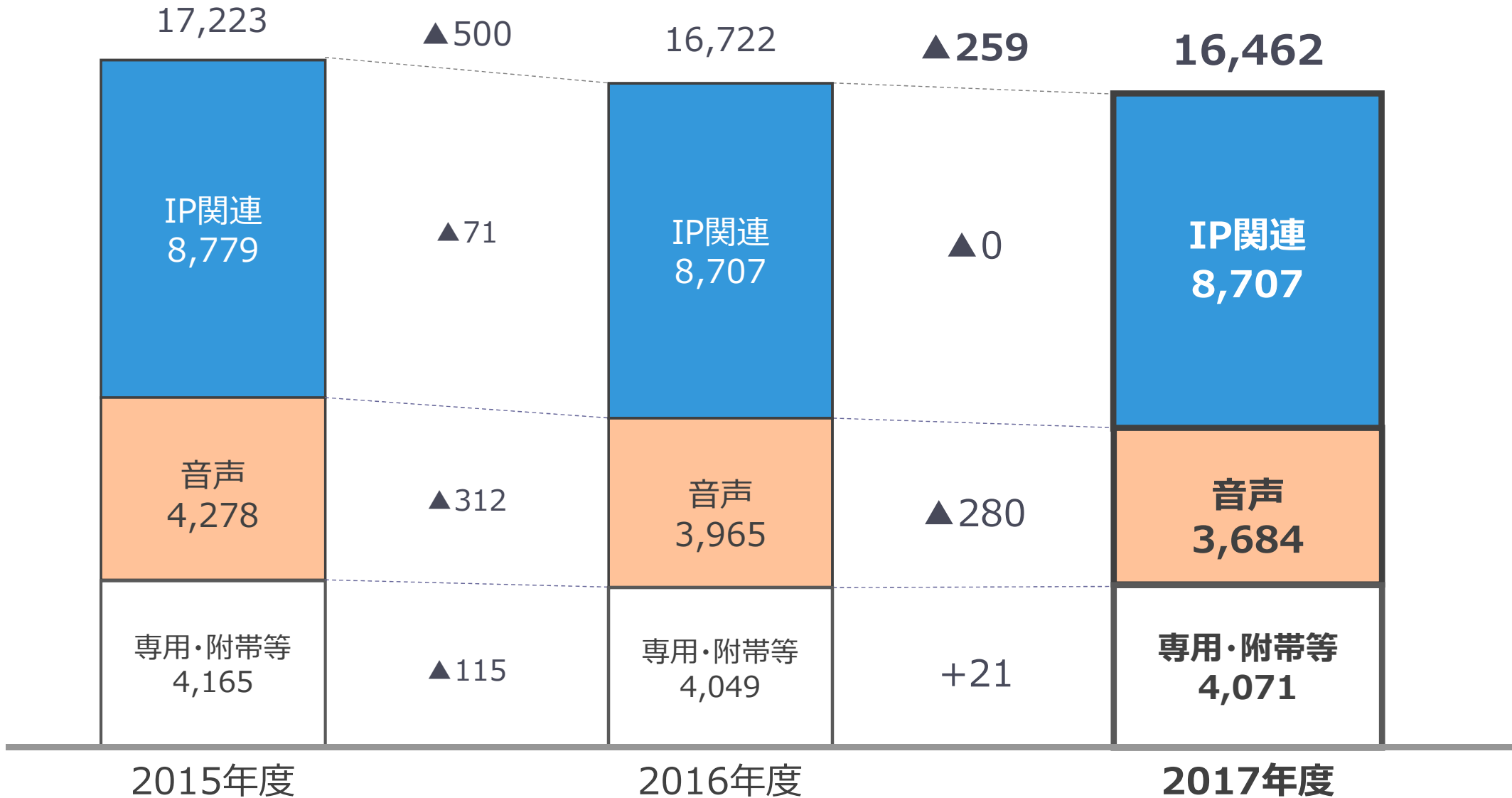
2. 損益及び設備投資の状況

(単位：億円)

項 目	前 期 (2016年度)	当 期 (2017年度)	増減額	増減率
営 業 収 益	16,722	16,462	▲ 259	▲ 1.6%
営 業 費 用	14,831	13,861	▲ 969	▲ 6.5%
営 業 利 益	1,891	2,600	+ 709	+ 37.5%
経 常 利 益	2,044	2,736	+ 691	+ 33.8%
特 別 損 益	—	▲ 609	▲ 609	—
当期純利益	1,496	1,524	+ 27	+ 1.9%
営業利益+特別損益	1,891	1,991	+ 100	+ 5.3%
設備投資	2,738	2,502	▲ 235	▲ 8.6%

3. 営業収益の推移

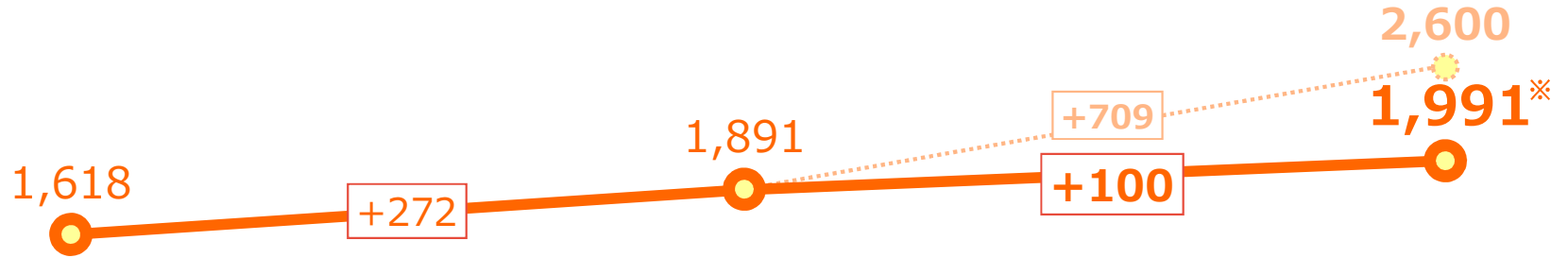
(単位：億円)



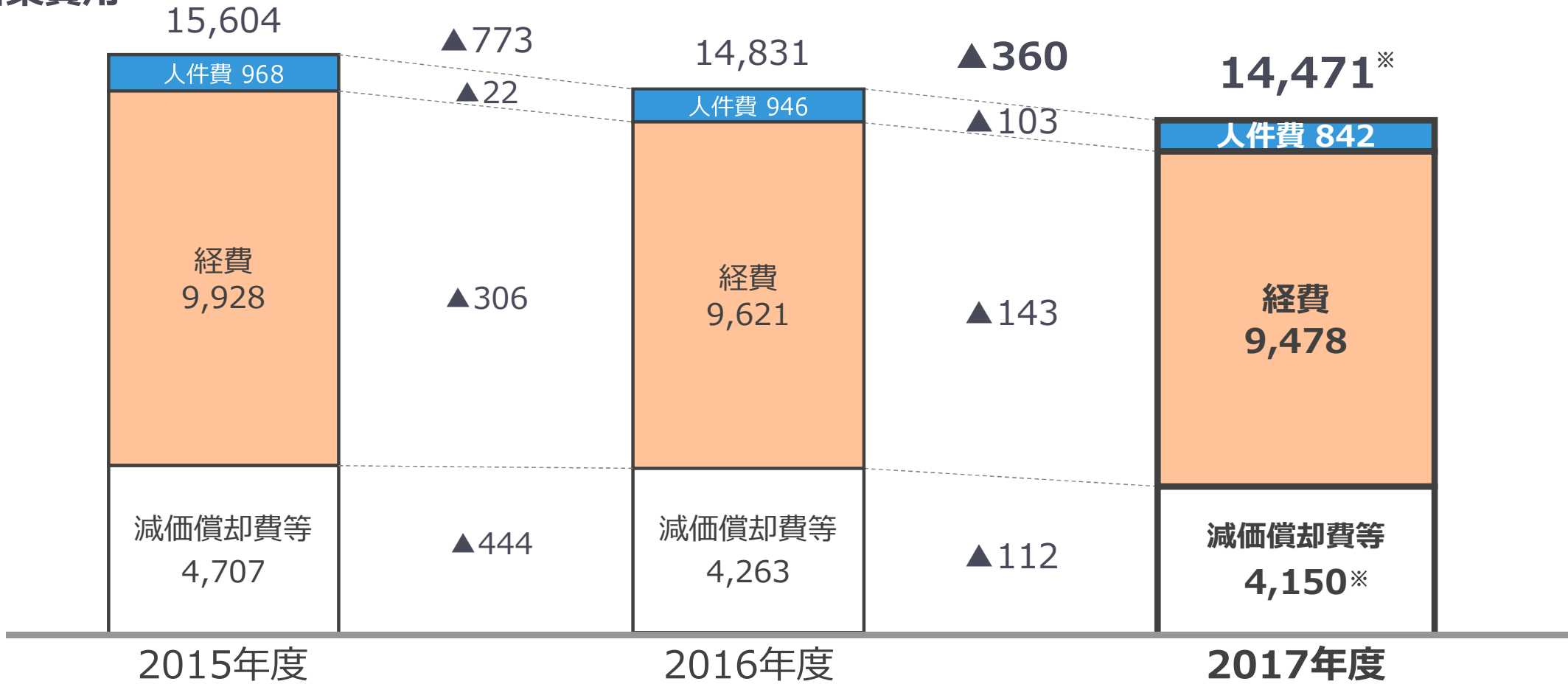
4. 営業費用と営業利益の推移

(単位：億円)

営業利益



営業費用



* メタルケーブル関連特別損失を含む

5. 次期業績予想

- 2018年度より、決算・業績予想をNTT東日本グループ連結(国際財務報告基準・IFRS)で公表。
- 営業収益は、対前年▲518億円減の1兆7,350億円。
- 営業利益は、収益減を費用減でカバーし、対前年+3億円増の2,330億円。
- 当期純利益は、1,630億円を見込む。

IFRS基準 ^{※1} (連結)		2017年度 実績	2018年度 業績予想	対前年増減額	対前年増減率
営業収益	億円	17,868	17,350	▲518	▲2.9%
営業利益		2,327	2,330	+3	+0.1%
当期純利益 ^{※2}		1,625	1,630	+5	+0.3%
フレッツ光純増数 ^{※3}	万契約	32	40	+8	+25.8%
設備投資(連結)	億円	2,686	2,750	+64	+2.4%

※1：IFRSに基づく通期実績は未監査の参考値であり、会計監査の結果により変更となる可能性があります。

※2：当期純利益は、当社に帰属する当期純利益を記載。

※3：NTT東日本単体数値。フレッツ光についてはコラボ光を含む。

本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされ、もしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされ、もしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会における説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。